

# 2019年3月期第3四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

---

2019年1月  
大阪ガス株式会社

1

本日は、お忙しいところ、当社の2019年3月期 第3四半期決算 電話会議説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

また、平素は、当社事業につき、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それではただ今より、2019年3月期 第3四半期決算について、弊社ホームページで開示しております、プレゼンテーション資料に沿って説明させていただきます。

# 目次

## I. 19.3期第3四半期決算と19.3期見通し

□ 19.3期第3四半期決算及び19.3期見通しのポイント	- 4
□ 19.3期第3四半期決算の対前年比較	- 5
□ 19.3期見通しの対前回見通し比較	- 6
□ 19.3期見通しの対前年比較	- 7
□ 19.3期第3四半期実績	- 8-10
□ 19.3期見通し	- 11-15
□ 19.3期第3四半期販売実績及び19.3期販売見通し	- 16-19
□ 19.3期第3四半期の成長投資実績	- 20
□ 19.3期第3四半期の主なトピックス	- 21-22

## II. 参考資料

□ 19.3期第3四半期差異(対前年)	- 24-25
□ 19.3期見通し差異(対前年)	- 26-27
□ 年度見通しに対するリスク要因	- 28

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。 <http://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m<sup>3</sup>として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

## I. 19.3期第3四半期決算と19.3期見通し

# 19.3期第3四半期決算及び19.3期見通しのポイント

## 2019.3期第3四半期決算 対前年同期比較

売上高	電力事業での販売量増等により、 <b>前年比3.7%(340億円)増収の9,436億円</b>
経常利益	ガス事業におけるスライド影響、高気水温影響によるガス販売量減等により、 <b>前年比49.4%(248億円)減益の254億円</b> <b>スライド差損は161億円(前年同期は9億円のスライド差益)</b>
四半期純利益*	新規案件取得に伴うのれんの一括償却**、災害による損失***の特別損失への計上等により、 <b>前年比83.6%(264億円)減益の52億円</b>

\* 親会社株主に帰属する四半期純利益  
\*\* 新規案件取得に伴うのれんの一括償却 89億円  
\*\*\* 災害による損失 20億円

## 2019.3期見通し 対前回見通し(2018/10/30)比較

売上高	LNG販売量、家庭用ガス販売量の減少等により、 <b>前回見通し比1.4%(190億円)減収の1兆3,810億円</b>
経常利益	原油価格低下によるタイムラグ影響等により、 <b>前回見通し比9.8%(55億円)増益の615億円</b> <b>スライド差損は117億円(前回見通しは127億円のスライド差損)</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	新規案件取得に伴うのれんの一括償却等により、 <b>前回見通し比15.3%(55億円)減益の305億円</b>

4

資料の4ページをご覧ください。こちらに決算のポイントをまとめています。

2019年3月期 第3四半期は、増収・減益の決算となりました。

経常利益は、ガス事業におけるスライド影響、高気水温影響等により、前年と比べて49.4%減益の254億円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、大津市のガス小売事業などを展開する「びわ湖ブルーエナジー」の株式取得に伴うのれんの一括償却89億円や、大阪北部地震等の災害による損失20億円を特別損失に計上したことなどにより、減益となりました。

「びわ湖ブルーエナジー」ののれん一括償却について補足させていただきます。同社の株式取得にあたり、当社グループが行うガスの卸販売や、大津市における電力・器具販売等のシナジー効果を含めて、その投資額を算定しました。

一方、会計処理としては、当社グループに帰属するシナジー効果を「びわ湖ブルーエナジー社」の株式価値とみなすことができないことから、のれんを一括償却しています。

次に、2019年3月期の連結および個別の業績予想について説明いたします。

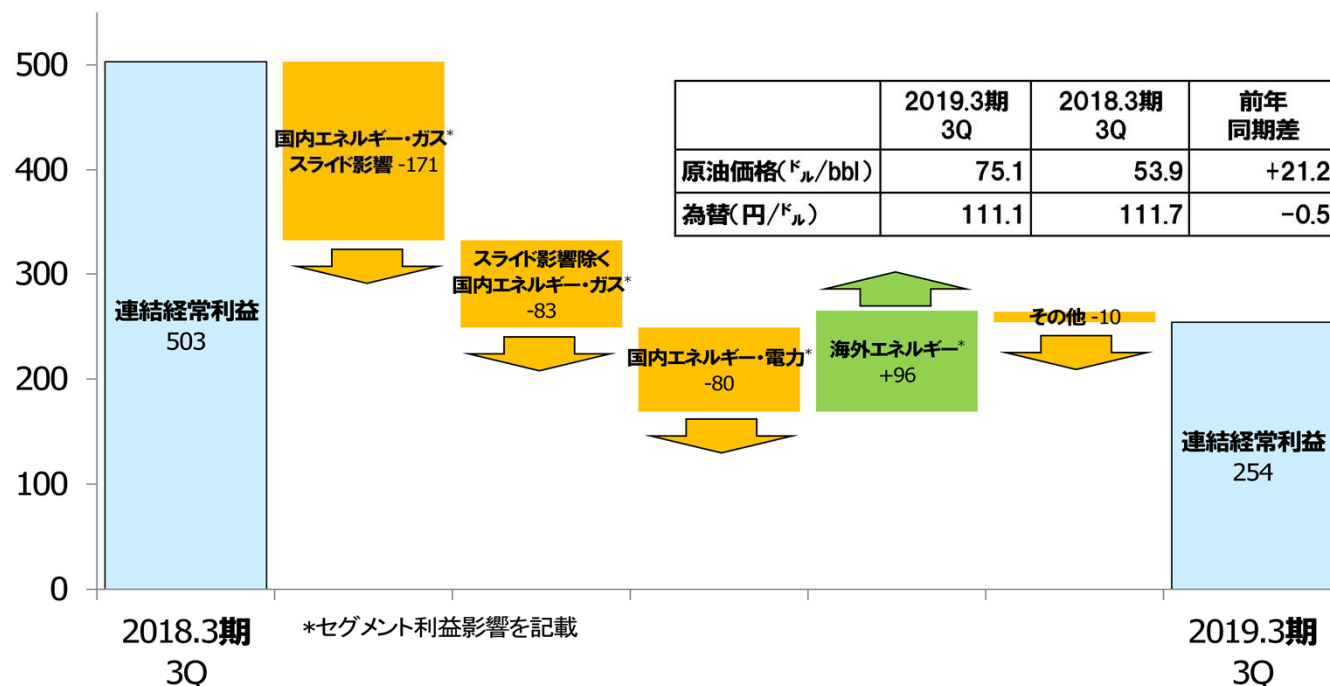
売上高は、LNG販売量、家庭用ガス販売量の減少等により、前回見通しから1.4%減収の1兆3,810億円、経常利益は原油価格低下による、タイムラグ影響等により、前回見通しから9.8%増益の615億円と想定しています。

親会社株主に帰属する当期純利益は、新規案件取得に伴うのれんの一括償却等により、前回見通しから15.3%減益の305億円の見通しです。

# 19.3期第3四半期決算の対前年比較

2019年3月期第3四半期の連結経常利益は、国内エネルギー・ガス事業におけるスライド影響、高気水温影響による減益等により、対前年-248億円の254億円

(億円)



5

当第3四半期決算について、前年との比較を5ページにまとめています。

国内エネルギー・ガスセグメントでは、原油価格上昇に伴うスライド差損の発生により、前年から171億円の減益、高気水温影響によるガス販売量の減少等により、前年から、83億円の減益となりました。

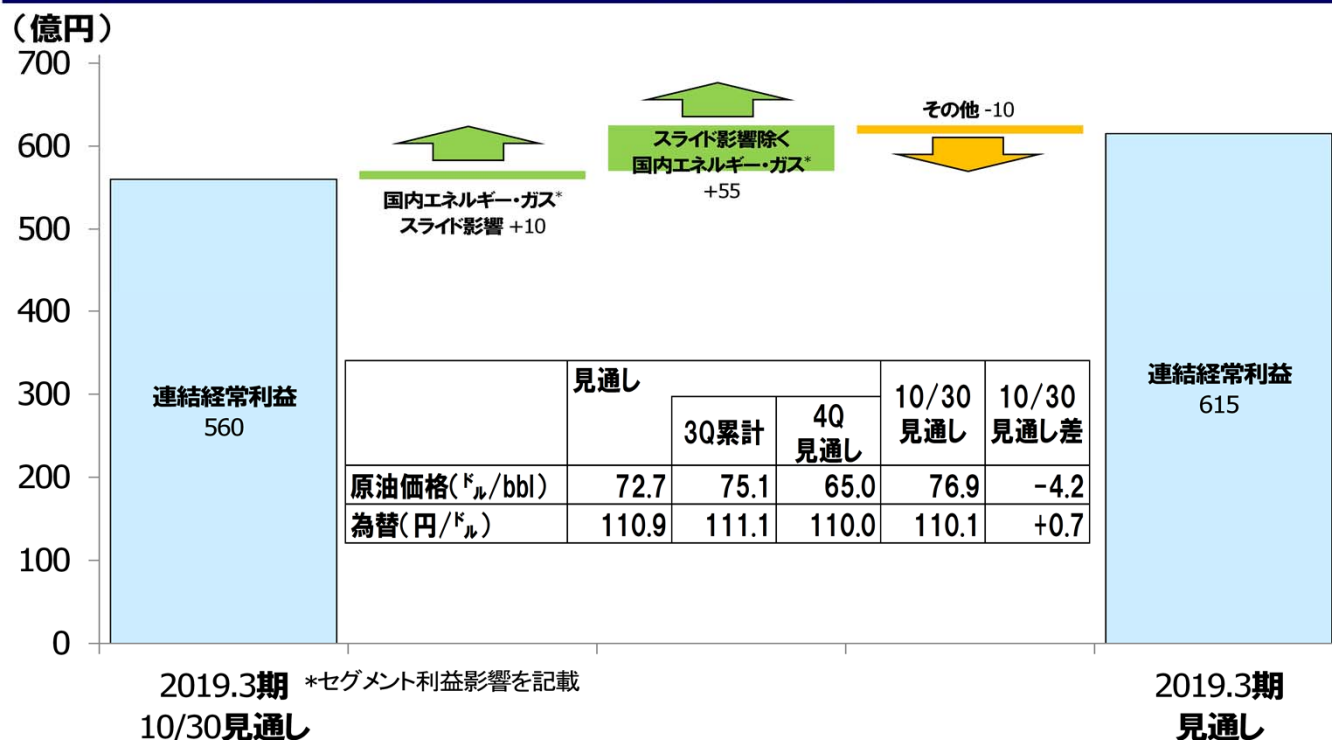
国内エネルギー・電力セグメントでは、電力販売量の増加がありましたが、競合影響、原油価格の上昇影響等により、80億円の減益となりました。

海外エネルギーセグメントでは、前年度の北米IPP持分売却による損失の反動、ゴーゴンプロジェクトの販売増等により、前年から96億円の増益となりました。

海外エネルギーセグメントでの増益がありましたが、国内エネルギー・ガス、電力セグメントの減益が上回り、連結経常利益は、前年から248億円減益の254億円となりました。

# 19.3期見通しの対前回見通し比較

2019年3月期の連結経常利益見通しは、原油価格低下によるタイムラグ影響、ガス事業費用減等により、対10/30時点見通し+55億円の615億円

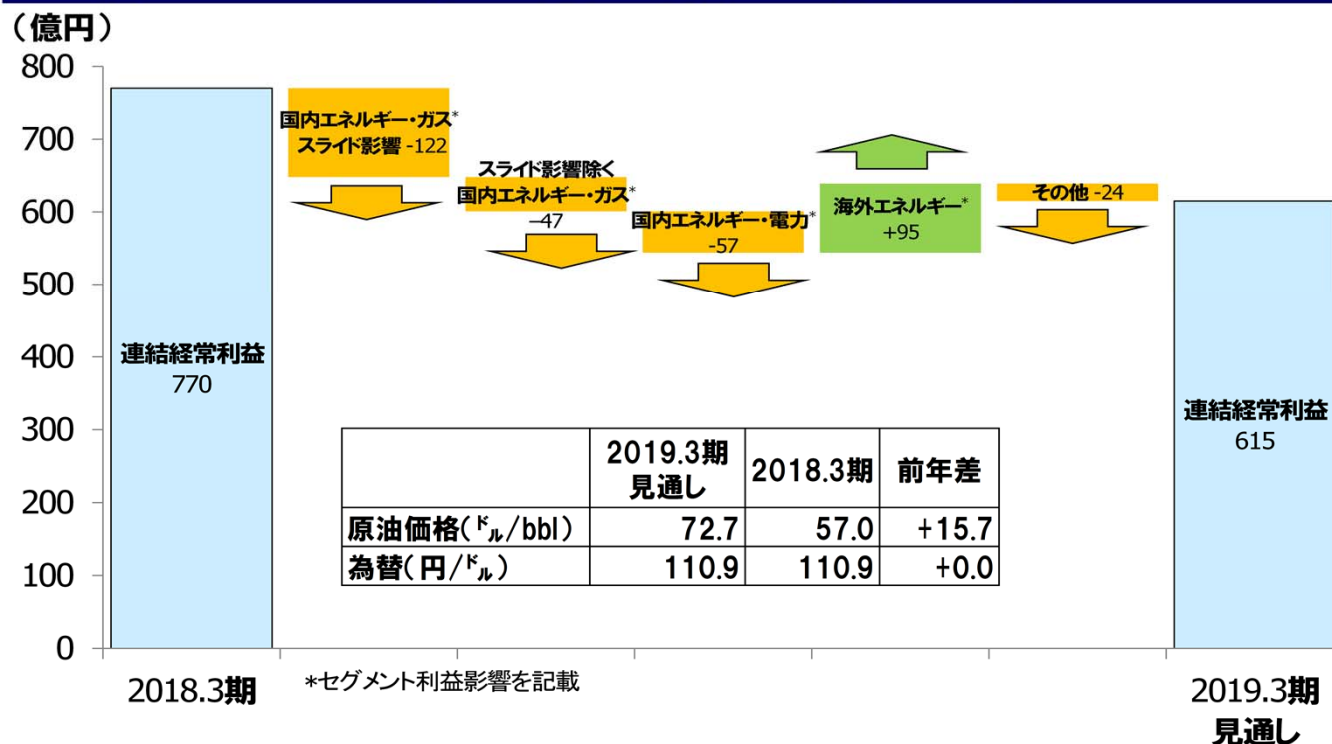


2019年3月期 通期の連結経常利益見通しについて、ガス事業、LNG販売事業における原油価格の低下影響、ガス事業費用の減少等を織り込むことで、前回見通しから55億円増益の615億円の見通しとしています。



## 19.3期見通しの対前年比較

2019年3月期の連結経常利益見通しは、国内エネルギー事業のスライド影響による減益等が、海外エネルギー事業の増益を上回り、対前年-155億円の615億円



修正見通しと前年との比較について、7ページにまとめています。

前年との比較では、海外エネルギー事業において、前年度の北米IPP持分売却の反動、ゴーゴンプロジェクトの販売増等により大きく増益となりますが、国内エネルギー・ガス事業におけるスライド影響等による減益が上回り、155億円の減益となる見通しです。

## 19.3期第3四半期実績 I

連結:億円( )内は連単倍率	A. 19.3期 3Q	B. 18.3期 3Q	A-B	(A-B)/B(%)	備考
売上高	(1.25) 9,436	(1.26) 9,095	+340	+3.7%	電力販売量の増加等
営業利益	(-) 233	(1.72) 485	-252	-52.0%	スライド影響、高気水温影響によるガス販売量の減少等
経常利益	(7.67) 254	(1.38) 503	-248	-49.4%	
四半期純利益*	(-) 52	(1.14) 316	-264	-83.6%	新規案件取得に伴うのれんの一括償却等
EBITDA**	1,010	1,159	-149	-12.9%	

\* 親会社株主に帰属する四半期純利益

\*\* EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費+持分法投資損益

スライド差損益	-161	9	-171	-	
スライド差損益控除後 経常利益	416	494	-77	-15.7%	

原油価格***	\$/bbl	75.1	53.9	+21.2	
為替レート	円/\$	111.1	111.7	-0.5	

\*\*\* 19.3期3Q原油価格実績は、12月速報値までの平均

8ページに実績数値をまとめています。



## 19.3期第3四半期実績Ⅱ

単位:億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.19.3期 3Q	B.18.3期 3Q	A-B	A.19.3期 3Q	B.18.3期 3Q	A-B	
国内エネルギー・ ガス**	6,874	6,834	+39	-8	246	-255	利益:スライド影響・高気水温影響 によるガス販売量の減少等
国内エネルギー・ 電力	1,314	1,080	+234	52	132	-80	利益:競合影響、原油価格上昇に よるタイムラグ影響等
海外エネルギー	270	154	+115	77	-19	+96	利益:前年度の北米IPP持分売却 影響の反動、コーゴン販売増等
ライフ&ビジネス ソリューション**	1,495	1,434	+60	120	128	-7	利益:概ね前年並み
消去又は全社	-518	-408	-109	13	10	+2	
連結	9,436	9,095	+340	256	499	-243	

\* セグメント損益=営業損益+持分法投資損益

\*\* 19.3期1Qより、大阪ガスエンジニアリング㈱のセグメントを「ライフ&ビジネス ソリューション」から「国内エネルギー・ガス」に変更  
18.3期3Q実績は、変更後の内容で試算

内、ヘッジ会計適用外のDV時価評価影響  
19.3期3Q 10, 18.3期3Q -12, 前年差 +22

9ページはセグメント別になります。

## 19.3期第3四半期実績Ⅲ

連結:億円	A. 19.3期 3Q末	18.3期 3Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産*	20,324	18,540	18,972	+1,352	北米IPP案件の取得等
自己資本	9,824	9,914	9,995	-170	
有利子負債	6,884	5,096	5,037	+1,846	
在籍人員(人)	20,420	20,257	19,997	+423	
自己資本比率*	48.3%	53.5%	52.7%	-4.3%	有利子負債の増加等
D/E比率*	0.70	0.51	0.50	+0.20	

\*「税効果会計に係る会計基準」の一部改正を考慮して算定

連結:億円	A. 19.3期 3Q	B. 18.3期 3Q	A-B	備考
設備投資	810	587	+222	北米上流案件の取得等
減価償却費	754	659	+94	
フリーキャッシュ・フロー**	-472	301	-774	営業利益減、運転資本増等

\*\* FCF=営業活動によるキャッシュ・フロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出

10ページでは、資産、負債等について整理しています。

総資産は、北米IPP案件の取得等により、前期末から1,352億円増加し、有利子負債も1,846億円増加しています。  
その結果、自己資本比率が48.3%、D/E比率が0.70となりました。

フリーキャッシュフローは営業利益の減少、運転資本の増加等により、前年から774億円減少の、-472億円となりました。

## 19.3期見通し I

連結:億円( )内は連単倍率	A. 19.3期 見通し	B. 19.3期 10/30見通し	A-B	(A-B)/B(%)	備考
売上高	(1.24) 13,810	(1.24) 14,000	-190	-1.4%	LNG販売量、家庭用ガス販売量の減等
営業利益	(2.33) 630	(2.88) 590	+40	+6.8%	原油価格低下によるタイムラグ影響、ガス事業費用の減等
経常利益	(1.62) 615	(1.90) 560	+55	+9.8%	
当期純利益*	(1.13) 305	(1.57) 360	-55	-15.3%	新規案件取得に伴うのれんの一括償却等
EBITDA**	1,585	1,465	+120	+8.2%	
* 親会社株主に帰属する当期純利益					
** EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費+持分法投資損益					
スライド差損益	-117	-127	+10	-	
スライド差損益控除後 経常利益	732	687	+45	+6.5%	
原油価格	\$/bbl	72.7	76.9	-4.2	
為替レート	円/\$	110.9	110.1	+0.7	

11ページは、見通しの前回見通しとの比較をまとめています。

## 19.3期見通しⅡ

単位:億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.19.3期 見通し	B.19.3期 10/30見通し	A-B	A.19.3期 見通し	B.19.3期 10/30見通し	A-B	
国内エネルギー・ ガス	10,132	10,317	-185	260	195	+65	利益:原油価格低下によるタイムラグ影響、ガス事業費用減等
国内エネルギー・ 電力	1,993	1,993	-	150	150	-	利益:前回見通し並み
海外エネルギー	322	330	-8	42	50	-8	利益:フリーポート関連の減等
ライフ&ビジネス ソリューション	2,111	2,080	+31	183	190	-7	利益:材料事業の原材料費増等
消去又は全社	-748	-720	-28	10	20	-10	
連結	13,810	14,000	-190	645	605	+40	

\* セグメント損益=営業損益+持分法投資損益

12ページはセグメント別に前回見通しとの比較をしています。

## 19.3期見通しⅢ

連結:億円( )内は連単倍率	A. 19.3期 見通し	B. 18.3期	A-B	(A-B) /B(%)	備考
売上高	(1.24) 13,810	(1.25) 12,962	+847	+6.5%	ガス事業のスライド影響等
営業利益	(2.33) 630	(1.64) 781	-151	-19.4%	スライド影響、ガス事業における 前年度の低気水温影響の反動 等
経常利益	(1.62) 615	(1.32) 770	-155	-20.2%	
当期純利益*	(1.13) 305	(0.86) 377	-72	-19.2%	
EBITDA	1,585	1,671	-86	-5.1%	
* 親会社株主に帰属する当期純利益 ** EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費+持分法投資損益					
スライド差損益	-117	5	-122	-	
スライド差損益控除後 経常利益	732	765	-33	-4.4%	
原油価格	\$/bbl	72.7	57.0	+15.7	
為替レート	円/\$	110.9	110.9	+0.0	

13ページは見通しの前年度との比較になります。

## 19.3期見通しⅣ

単位:億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.19.3期 見通し	B.18.3期	A-B	A.19.3期 見通し	B.18.3期	A-B	
国内エネルギー・ ガス**	10,132	9,762	+369	260	429	-169	利益:スライド影響、高気水温影響 によるガス販売量の減等
国内エネルギー・ 電力	1,993	1,577	+415	150	207	-57	利益:競合影響、原油価格上昇に よるタイムラグ影響等
海外エネルギー	322	225	+96	42	-53	+95	利益:前年度の北米IPP持分売却 影響の反動、コーゴン販売増等
ライフ&ビジネス ソリューション**	2,111	2,014	+96	183	182	+0	利益:概ね前年並み
消去又は全社	-748	-618	-129	10	17	-7	
連結	13,810	12,962	+847	645	783	-138	

\* セグメント損益=営業損益+持分法投資損益

\*\* 19.3期1Qより、大阪ガスエンジニアリング株のセグメントを「ライフ&ビジネス ソリューション」から「国内エネルギー・ガス」に変更  
18.3期実績は、変更後の内容で試算

14ページはセグメント別に前年度との比較をしています。



## 19.3期見通しV

連結:億円	A. 19.3期 見通し	B. 18.3期末	A-B	備考
総資産*	19,850	18,972	+877	北米IPP案件の取得等
自己資本	9,980	9,995	-15	
有利子負債	6,380	5,037	+1,342	新規借入等
在籍人員(人)	20,555	19,997	+558	オージス総研G、Jacobi等
自己資本比率*	50.3%	52.7%	-2.4%	
D/E比率	0.64	0.50	+0.14	

\*「税効果会計に係る会計基準」の一部改正を考慮して算定

	A. 19.3期 見通し	B. 18.3期末	A-B	備考
設備投資	900	817	+82	供給設備の増加等
減価償却費	939	887	+52	
フリーキャッシュ・フロー**	103	1,163	-1,060	運転資本の増加等
ROA	1.6%	2.0%	-0.4%	
ROE	3.1%	3.8%	-0.8%	
EPS(円/株)	73.3	90.7	-17.4	
BPS(円/株)	2,400.1	2,403.7	-3.6	

\*\* FCF=営業活動によるキャッシュ・フロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出

15ページは、資産、負債等について記載しています。

自己資本比率は50.3%、D/E比率は0.64の見通しです。

## 19.3期第3四半期販売実績

### ■ ガス販売

\*ガス供給件数=取付メーター数 - 閉栓中メーター数(空家等) - 他社ガス供給件数  
 \*\*用途別の差異要因はP.18・19に記載

45MJ/m <sup>3</sup>		A. 19.3期3Q	B. 18.3期3Q	A-B	(A-B)/B(%)
個	ガス供給件数(千件、期末時点)*	5,626	6,028	-402	-6.7%
	新設工事件数(千件)	67	71	-5	-6.5%
	家庭用1戸当り販売量(m <sup>3</sup> /月)	22.2	24.2	-2.0	-8.2%
別	家庭用**	1,105	1,275	-170	-13.4%
	業務用等**	4,471	4,731	-260	-5.5%
ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )		5,576	6,006	-430	-7.2%
連結ガス販売量		5,602	6,031	-430	-7.1%

### ■ 電力販売(連結)

		A. 19.3期3Q	B. 18.3期3Q	A-B	(A-B)/B(%)
小売	卸等	2,299	1,489	+810	+54.4%
	卸等	6,203	6,241	-38	-0.6%
国内電力販売量(百万kWh)		8,502	7,730	+772	+10.0%
低圧電気供給件数(千件、期末時点)		857	545	+312	+57.3%

### ■ お客さまアカウント(連結)

		A. 19.3期3Q末	B. 18.3期末	A-B	(A-B)/B(%)
お客さまアカウント数(万件)		866	827	+39	+4.7%

16

16ページは、販売実績についてまとめています。

連結ガス販売量は、家庭用、業務用等が共に減少し、前年から7.1%減少の56億2百万m<sup>3</sup>となりました。

家庭用は、高気水温影響、他社へのスイッチング影響等により前年から減少となりました。業務用等は他社へのスイッチング影響、特定のお客さま先での稼働減等により、前年から減少となりました。

国内電力販売量は、小売契約の獲得等により、前年から10%増加の85億2百万kWhとなりました。

低圧電気供給件数は、2018年12月末時点で85万7千件となり、2019年1月30日時点では、約88万件となっております。できるだけ早期に100万件のお客さまから選んでいただけるよう活動していきます。

お客さまアカウント数は、ガス事業での他社へのスイッチング影響がありましたが、住ミカタ・サービスプラスの契約、電力小売契約、保証契約の獲得、ガス事業での新設等により、前期末から39万件増加の866万件となりました。

# 19.3期販売見通し

電力販売、お客さまアカウントについては、  
10月発表時の販売見通しから、変更ありません。

\*用途別の差異要因はP.18・19に記載

## ■ ガス販売

45MJ/m <sup>3</sup>		19.3期 10/30見通し	A. 19.3期 見通し	B. 18.3期 実績	A-B	(A-B) /B (%)
個	家庭用*	1,957	1,895	2,160	-265	-12.3%
別	業務用等*	5,732	5,996	6,387	-391	-6.1%
ガス販売量合計 (百万m <sup>3</sup> )		7,690	7,891	8,546	-656	-7.7%
連結ガス販売量		7,723	7,924	8,580	-656	-7.6%

## ■ 電力販売(連結)

		A. 19.3期 見通し	B. 18.3期 実績	A-B	(A-B) /B (%)
国内電力販売量 (百万kWh)		11,671	10,951	+720	+6.6%

## ■ お客さまアカウント(連結)

		A. 19.3期末 見通し	B. 18.3期末	A-B	(A-B) /B (%)
お客さまアカウント数(万件)		890	827	+63	+7.6%

17ページは販売見通しになります。

連結ガス販売量は、家庭用、業務用等が共に減少し、前年から7.6%減少の79億24百万m<sup>3</sup>となる見通しです。

家庭用は、高気水温影響、他社へのスイッチング影響等により前年から減少し、業務用等は他社へのスイッチング影響、特定のお客さま先での稼働減等により、前年から減少となる見通しです。

電力販売量、お客さまアカウントについては、前回見通しから変更ありません。

**家庭用ガス販売 19.3期第3四半期実績、19.3期見通し****19.3期第3四半期実績**

	対前期	備考
調定件数	-4.5%	他社へのスイッチング等
気水温影響	-6.0%	平均気温20.8度(対前年同期 +0.8度)
その他	-2.8%	検針日数影響、ガス機器の高効率化、世帯人数減少等
合計	-13.4%	

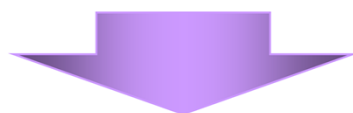
**19.3期見通し**

- 前年度の低気水温影響の反動、離脱影響等を織込むことで、前年比-12.3%、265百万m<sup>3</sup>減の1,895百万m<sup>3</sup>を見込む。

18ページは家庭用ガス販売の詳細になります。

**業務用等ガス販売 19.3期第3四半期実績、19.3期見通し****19.3期第3四半期実績**

	対前期	備考
需要開発	+0.9%	設備導入、燃料転換等
気水温影響	-0.1%	
設備稼働増減	-0.3%	
個別要因	-4.9%	他社へのスイッチング、特定のお客さま先での減少
その他	-1.2%	
合計	-5.5%	

**19.3期見通し**

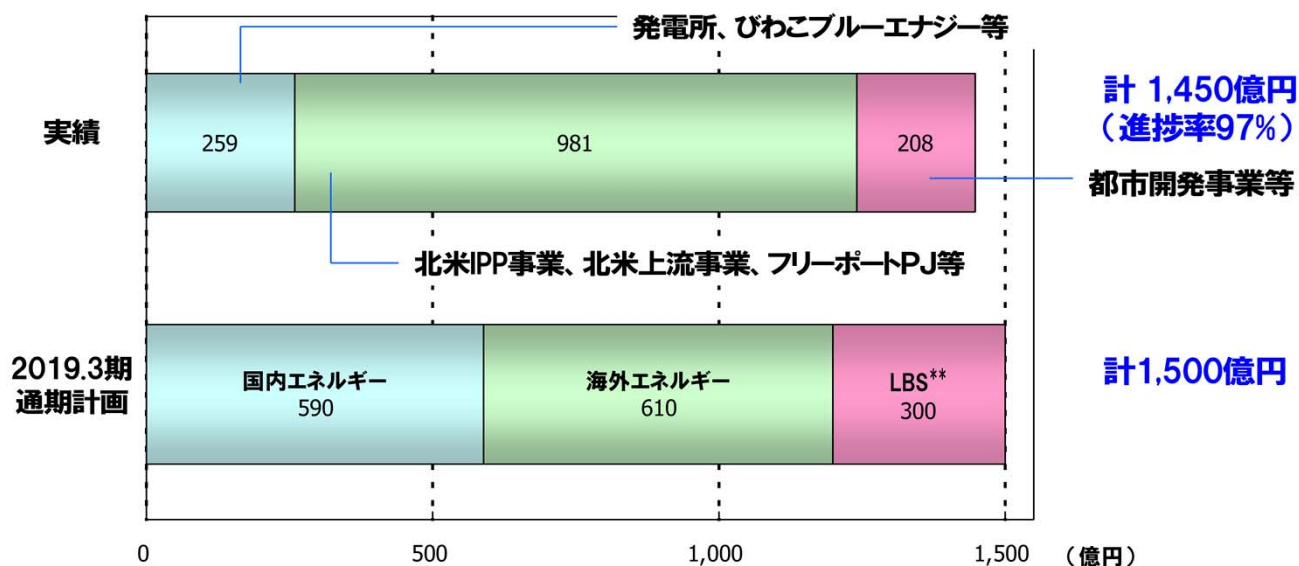
- 離脱影響、特定のお客さま先での減少等を織り込むことで、前年比-6.1%、391百万m<sup>3</sup>減の5,996百万m<sup>3</sup>を見込む。

19ページは業務用等ガス販売の詳細になります。

## 19.3期第3四半期の成長投資実績

2019年3月期第3四半期の成長投資実績は1,450億円、年間計画に対して97%の進捗  
主に海外エネルギー事業において、北米IPP事業、北米上流事業等への投資を実行

### 2019.3期第3四半期の成長投資\*



\* 投資実行額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

\*\* LBS: ライフ&ビジネス ソリューション

20ページは成長投資実績になります。

2019年3月期第3四半期の成長投資は、海外エネルギー事業を中心に1,450億円実行し、年間計画に対する進捗は97%となりました。



## 19.3期第3四半期の主なトピックス①

4月	<p>米国ベンチャーファンド WIL Fund II, L.P. への出資          米国ミシガン州における天然ガス火力発電事業への参画          株式会社ライアンスエナジー沖縄への出資          株式会社CDエナジーダイレクトの設立</p>
5月	<p>台湾におけるLNG受入基地建設に係るコンサルティング業務の受注          米国コネチカット州における天然ガス火力発電事業への参画          「復旧見える化システム」の開発</p>
6月	<p>米国テキサス州におけるシェールガス生産開発事業への参画          大阪北部を震源とする地震発生、11万戸のガス供給停止          首都圏におけるエネルギー等の販売事業の開始          電気料金の値下げと料金メニューの一部変更          印南風力発電所の営業運転の開始</p>
7月	<p>千葉県袖ヶ浦市におけるバイオマス発電所の事業化決定について          高品質の大吟醸酒造りを画像認識技術により支援 伏見酒造組合と大阪ガスが酒米評価の新技术を開発</p>
8月	<p>トイレ空席管理IoTサービス「ekul toilet(イークルトイレット)」のサービス開始          米国・VPPプラットフォーム提供スタートアップ企業との共同実証の開始          お客様のライフスタイルや個々のニーズに対応した新しい電気料金メニュー「スタイルプラン」の設定と          「スタイルプランP」の受付開始</p>
9月	<p>新潟県長岡市における液化炭酸・ドライアイス事業会社の設立          「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス」に2年連続で選定          旭化成株式会社延岡地区における天然ガス火力発電所の導入および天然ガス供給を担う合併会社設立          タイ・ホンダ・マニュファクチャリング向けオンサイトエネルギー供給プロジェクトの供給開始</p>

※プレスリリース実施月を記載

21、22ページに、2019年3月期 第3四半期の主なトピックスをまとめています。

以上で、2019年3月期第3四半期決算と、2019年3月期の見通しについて、説明を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

## 19.3期第3四半期の主なトピックス②

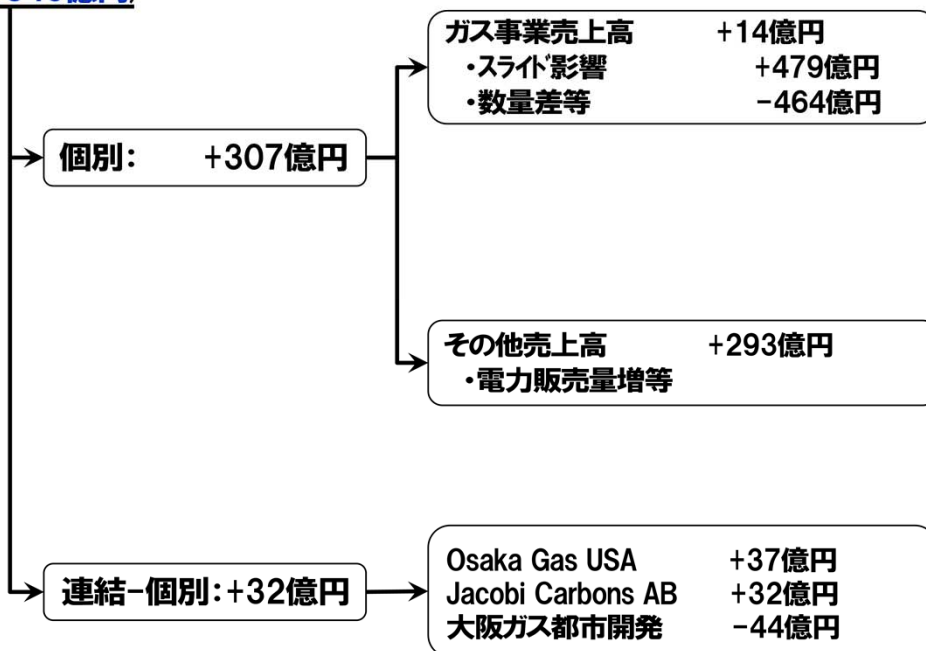
10月	大阪ガス・JFEエンジニアリング・水道機工で構成するコンソーシアムが大津市ガス特定運営事業等における優先交渉権者に選定 大阪ガスインドネシア社設立、インドネシアにおけるプルタミナグループとの天然ガス共同マーケティング事業開始
11月	「尼崎・久御山ライン(仮称)」の建設
12月	大津市ガス特定運営事業等に係る実施契約の締結および新会社「びわ湖ブルーエナジー株式会社」の株式譲渡 ひむかエルエヌジー LNG内航船受入基地建設工事の受注 米国・コネチカット州における天然ガス火力発電事業への参画

※プレスリリース実施月を記載

## II. 參考資料

## 19.3期第3四半期の売上高差異(対前年)

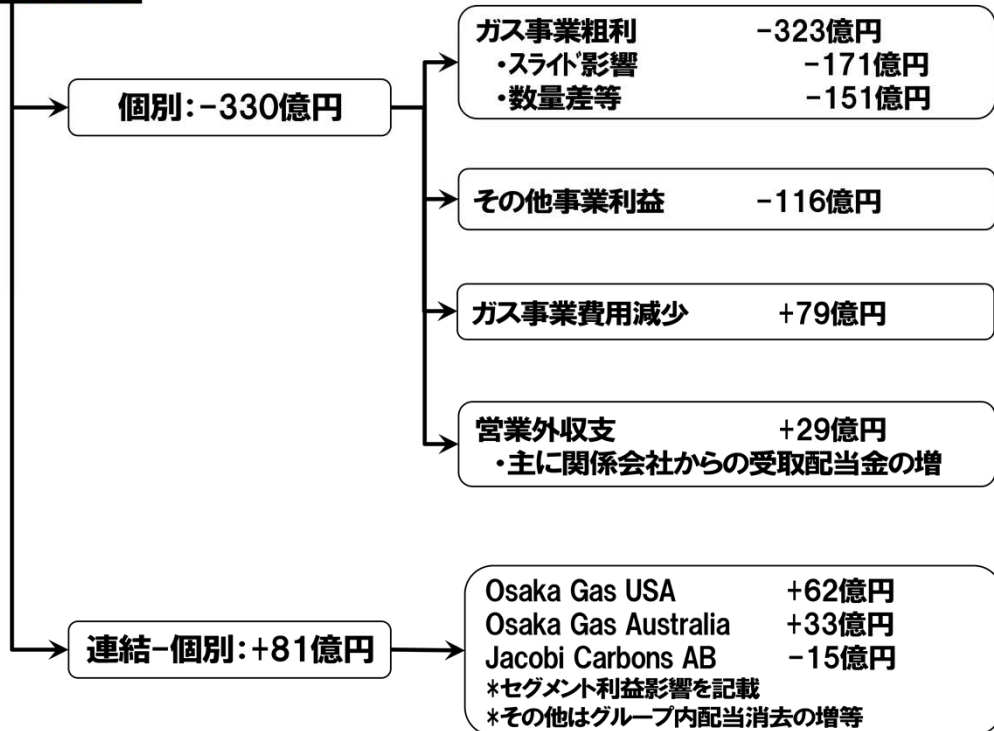
18.3期3Q → 19.3期3Q (差異)  
 9,095億円    9,436億円 (+340億円)



# 19.3期第3四半期の経常利益差異(対前年)

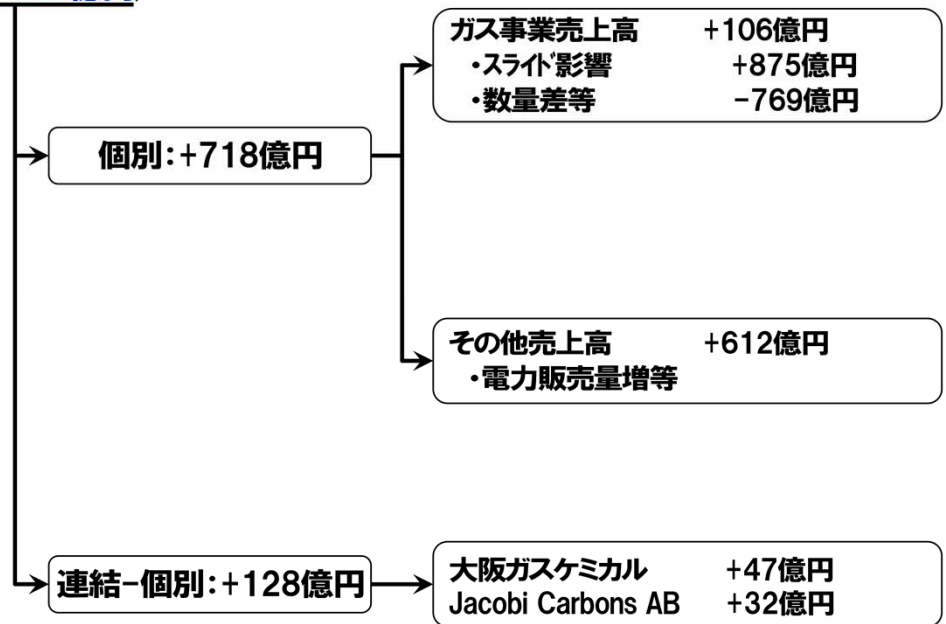
18.3期3Q → 19.3期3Q (差異)  
 503億円      254億円 (-248億円)

+-の符号は利益への影響を表す。



## 19.3期の売上高見通し差異(対前年)

18.3期 → 19.3期見通し (差異)  
 12,962億円 13,810億円 (+847億円)



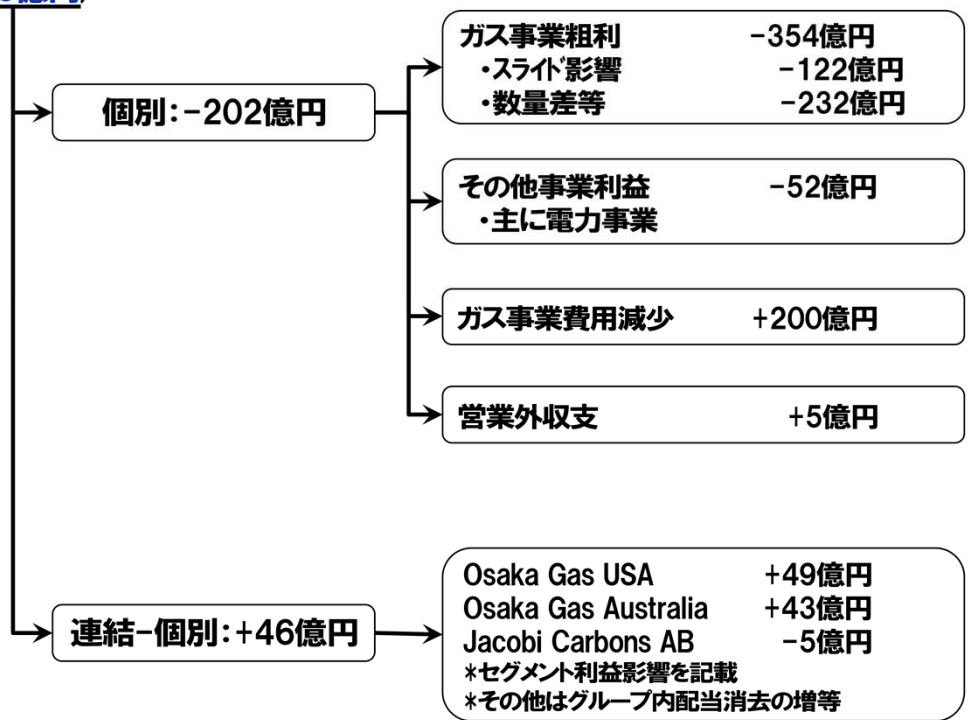


# 19.3期の経常利益見通し差異(対前年)

18.3期 → 19.3期見通し (差異)

770億円 615億円 (-155億円)

+-の符号は利益への影響を表す。



## 年度見通しに対するリスク要因

### ■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対し、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある。

### ■ 原油価格

- LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、19.3期の連結経常利益は約-0億円変動する可能性がある。

### ■ 為替レート

- LNG価格が米\$・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、19.3期の連結経常利益は-8億円変動する可能性がある。

### ■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

### ■ 金利

- 金利+1%の変動に対し、19.3期の連結営業外費用が年間+4億円変動する可能性がある。

以 上